

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京

2021 年度 活動報告書

2021 年度事業報告

[期間 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日]

2022 年度事業計画

[期間 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日]

2021 年度決算・2022 年度予算

代表理事・理事・監事・評議員の選任



■ 2022 年度会員総会開催概要

■ 日時： 2022 年 6 月 12 日（日） 14：00 ～

■ 場所： 子どもアミーゴ西東京事務局よりオンライン

サテライト会場 西東京市コール田無 会議室 A

■ 議事次第

第 1 号議案 2021 年度事業報告

第 2 号議案 2022 年度事業計画

第 3 号議案 2021 年度決算・2022 年度予算

第 4 号議案 監査報告

第 5 号議案 代表理事・理事・監事・評議員の選任

第 6 号議案 その他

■2021 年度 事業報告

2021 年度においては、2019 年度後半からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響が予想外に長期に渡り、団体の諸活動はもとより学童クラブや児童センター受託運営の各事業においても、その本来の姿で行うことが困難でした。第4期中期ビジョンの最終年度の年でありましたが、予定していた事業についてもその影響は大きく、刻々と変化する社会情勢を常に追いかける必要のある一年でした。学童クラブや児童センターを利用する子ども達、子育て家庭も、様々な制約の中でどうしてもストレスが生じる環境が多くなる社会情勢の中、各施設で子ども達やご家庭とどのように関わり、どのように活動に取り組みば子ども達の利益となるのか、試行錯誤を迫られる年度となりました。そのような状況下でしたが、会員の皆様、地域保護者の皆様からの心のこもった応援をいただきながら、団体一丸となって各事業、組織運営に取り組みました。2021 年度の各事業における取組みを記載します。

◇子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業

1. 各事業の報告

【自然塾】

学童クラブ卒所生が、学童クラブ卒所後もつながり続けることができる場作りを目的とした野外キャンプ事業ですが、2018 年度の実施を最後に中断しています。2021 年度も、次年度の再開を見据えて実行委員会を組織し検討を重ねました。再開に向けた広報活動の一環として、過去の参加者や休止時期の対象者に呼び掛け、夏休みにレクリエーションの場作りイベントを企画いたしました。しかし、緊急非常事態宣言の継続もあり、実施を見送りました。代わりに、広報紙「アミーゴ通信」で自然塾特集号を委員会として作成し、10 月号として会員の皆様や自然塾に賛同くださっている保護者の方々にお送りしました。

また2022年1月9日に、小金井公園において、夏休みに延期したイベント「集まれ！自然塾仲間」を実施しました。小学生から中学生、更には翌日に成人式を控えた卒所生までも含め15名以上が参加し、学童時代に戻ってエスケンやベーゴマなどをしながら、ひと時を楽しく過ごしました。実行委員会では、2022年度のキャンプ実施可否に関わらず、身近で卒所生が集まれる場作りを今後も継続することが提案され、事業計画案の作成を行いました。

【だがしや楽校】

団体が主催するお祭り形式の地域イベントですが、社会情勢を鑑み実施を見送りました。2022年度の再開を目指して、広報紙の「アミーゴ通信」で特集号を委員会として作成し、発行しました。これまでのだがしや楽校の様子を改めて伝える12月号、「自分の店＝自分見せ」として、各施設の「見せたい場面」を特集した2月号を実行委員会として発行いたしました。また、2022年度の事業再開に向けた事業計画案の作成を行いました。

【東日本大震災被災地の学童クラブとの交流】

だがしや楽校の実施見送りに伴い、だがしや楽校の場で行ってきた、福島県いわき市の学童クラブ運営

団体「一般社団法人キッズスマイルいわき FP」との交流事業も実施ができませんでした。しかし、折々の情報交換を両団体の事務局間で行い、互いの状況を知らせ合いました。

【高学年合宿】

2021 年度も引き続き宿泊キャンプの形は自粛し、「4 年生お楽しみ会」、「4 年生デイキャンプ」と呼称を変えて近隣公園でのデイキャンプや施設でのレクリエーション等の形で各施設とも計画し、2021 年 11 月から 2022 年 3 月にかけて、感染症の再拡大の情勢を踏まえながら実施しました。

【その他の事業】

地域のネットワークへの参画強化を図るため下記の事業に参加しました。

①アースデイ西東京 2021 秋のフェスティバル

開催日：11 月 20 日～12 月 12 日

感染拡大のため、長年開催されてきた大イベント方式は中止し、オープニングイベントとエンドイベントおよびその間の「小さなつどい」の集合体となりました。当団体は協賛団体となるとともに、オンライン会議の会場提供および技術協力を行いました。

②第 10 回こそだてフェスタ@西東京（主催：こそだてフェスタ実行委員会）

開催日：12 月 19 日

開会式ライブ配信およびパブリックビューイング会場 ひばりが丘児童センター

当日は 145 名の来館があり、ラウンジの大画面に映される参加団体の活動紹介の映像に、足を止めて見入る姿が見られました。団体も紹介動画を作成し参加しました。特設ホームページで 3 月末まで掲載されました。

③第 13 回 NPO 市民フェスティバル

（主催：西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ・フェスティバル実行委員会）

開催日：2022 年 1 月 22～23 日

感染症拡大のため、予定されていた会場での展示は中止、オンラインのみでの開催となりました。事務局長が副実行委員長として運営に関わりました。団体の紹介動画を作成し参加しました。

3 月末まで西東京市協働推進センターゆめこらぼのホームページ特設会場にて掲載されました。

④ひばりが丘中学校創立 60 周年記念＆新校舎記念プロジェクト「START」

（主催：ひばりが丘中学校 PTA・プロジェクト実行委員会）

開催日：3 月 26 日

生徒、保護者など含め、142 名の参加者がありました。ひばりが丘児童センター、事務局による運営協力を行いました。プロジェクションマッピングや Youtube で人気の女性シンガーのライブ、学校の卒業生でもある有名アーティストからのメッセージと演奏動画の投影、児童センターと地域の方々の協力により実施したスポーツと遊びのイベントスペース、先生と保護者、事務局からも参加した音楽演奏など盛沢山の内容で、参加した在校生、卒業生たちからも良い思い出になったとの声を聞くことができました。

◇学童クラブ運営事業

昨年度に引き続き保護者や学校、近隣の地域、外部団体とのつながりの強化を図ること、学童クラブにおける基本的な業務を、職員が確実に一定の水準で担えるよう基盤の整備をすることを2021年度の計画といたしました。新型コロナウイルス感染症の広がりは収まらず、感染症対策を引き続き行いながらの1年となりました。

感染症対策に向けては団体で基準を設け、全施設で統一的に密集防止、換気や遊具の消毒、マスクの着用や手指の消毒など対策を行いました。またそれぞれの環境に応じて、あそびの時間や間食提供の際に時間や場所で分散を図るなど、各施設独自の工夫も併せて行いました。

保護者との関係を紡ぐための重要な機会である保護者会や共催行事などの開催は、開催時間の調整や分散開催などの工夫をして実施しました。また、近隣小学校との情報交換は緊急事態宣言の合間の期間に、可能な限り学校に働き掛け、実施を図りました。

このような中、2021年度当初より、全ての受託学童においては床面積当たりの定員を超えた児童数が入所する定員超過の状況となりました。まん延防止適用や緊急事態宣言下においては登所児童数が減少する時期もありましたが、解除されている間の平日においては、面積定員に比して少ない時でも約60%、最大では100%超と、非常に室内が混み合う状況が見られました。密集防止など感染予防対策の難しさとともに、安全管理や子どもの気持ちのくみ取りなど、支援の質の担保についても従来にはない観点での配慮が必要でした。待機児童が出ることを回避するための全員入所施策に伴う不可避の現状ではありますが、短期、長期それぞれの観点での対策が望まれる状況です。

また、各施設の職員が意見を出し合い、学び合う場を作るため指導員会を毎月開催しました。グループワークも活用し、自由闊達な意見交換を行いました。活発なコミュニケーションを通して、職員一人一人が当事者として、アミーゴの学童全体の方向性を考える機会となりました。また、今年度実施された第三者評価におけるアンケート結果や「指導員の仕事振り返りシート」の活用により、学童クラブ運営事業部全体の課題抽出に取り組みました。

また子どもにどう関わり、指導員としてどう取り組んだのかを文章化して相互に検討し合う、実践記録検討研修を実施しました。自分ひとりの視点ではない、多様な視点を保育支援に取り入れるきっかけを見出せる有意義な研修となりました。2021年度は全国学童保育連絡協議会の事務局長で、文京区の指導員でもある高橋誠氏を講師として呼び、研修開始に先立ち、その意義や留意点などについてお話を伺いました。

◇児童センター

2021 年度児童センター運営事業は、①地域団体・人材との関係強化、②地域の中で切れ目のない居場所作り、③全ての年代の利用者にとって過ごしやすい環境整備、④業務の平準化の 4 つの取り組みをおこない、活動目標として「地域子育て支援拠点事業（子育て広場事業）」「小学生を対象とした事業」「中学・高校生年代を対象とした事業」を実施しました。

年間を通じて新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、全館閉館や一部閉館などもあり、イベントの実施や地域との連携などができない難しい状況が続きましたが、そのような中でも、利用者を感染から守りつつ、それぞれのニーズや地域の実情に応じて制限あるいは緩和を適宜判断しながら運営をしました。

● 4 つの取り組み

① 地域団体・人材との関係強化

上半期は前述の通り全館閉館などの影響で難しい時期もありましたが、そのような状況でも小中学校や子ども家庭支援センターなどの関係機関との連携や情報交換は随時おこないました。制限の緩和がされるようになった下半期では、中原小学校にて父親の会・PTA・育成会ひばりなどと協力し 11 月 20 日「みんなの IRODORI ひばりまつり」を開催しました。制限のある中でいかに楽しいイベントを実施するか企画の段階から参加をし、地域の中の一員として児童センターをアピールすることができました。

また、新しい試みとして不登校情報交換ネットワーク・ハートラインひばりの情報交換会に参加しました。児童センターでも利用者が不登校支援の情報を得られるようにし、支援の入り口として繋げるケースもありました。地域の人材の発掘としては、元学童クラブ保護者の講師を招き「ベビトレヨガ」を実施しました。イベント制限の影響により一度の実施に終わりましたが、今後もこのような事業を継続していきます。

② 地域の中で切れ目のない居場所作り

制限がある中でも、利用者にとって地域の中での居場所となれるよう日常やイベント等でできる限りの取り組みをおこないました。

日常においては、ラウンジや乳幼児スペースでのおもちゃを日替わりで出すことにより、消毒をしつつ多くのおもちゃで遊べるようにしました。また、集団遊びが難しい状況の中でもルールを工夫し、感染防止対策をしながら広い年代で一緒に遊べるように取り組みました。

イベントにおいては、幅広い月齢の乳幼児利用者が参加しやすい場作り事業として「よちわくひろば」を実施しました。月齢を超えて交流ができる良い機会と好評であったものの、一方では月齢別の活動に対するニーズもあったため、それを踏まえ次年度に活かしていきます。また、全年齢対象の事業として、仮装フォトコンテストを実施しました。2 週間ほど期間を設け、だれでも気軽に写真撮影やコンテスト応募・投票をおこなえるようにしたことで多くの参加があり、写真閲覧を通して間接的にでも利用者同士の交流を促進することができました。

③ 全ての年代の利用者にとって過ごしやすい環境整備

施設の案内や感染防止のルール表示など、統一性を持たせた掲示に努めました。感染防止対策で机やおもちゃの配置を変更する必要がある際も「初めての来館でも分かりやすく」という視点を常を持って取り組みました。

おたよりやＳＮＳなどを利用した広報活動については、イベントの告知で来館者が集まり過ぎてしまうことを避けるために、ルール表記や館内の様子をお知らせするに留めました。

④ 業務の平準化

年間を通したイベントの見直し、月例行事と事務作業ローテーションの適正化、正規職員共有ノートの運用、外部団体の意見を取り入れた職員会議の効率化、臨時職員対象のワークショップの実施、等に取り組みました。その結果「良かったこと、続けること」を整理し、課題を明確にしたうえで改善していけるよう職員間で検討を重ね、今後も継続的に取り組んでいきます。

●主な実施事業

	活動	対象	内容	共催・協力
地域子育て支援拠点事業 (子育て広場事業)	よちわくひろば	乳幼児親子	広場・交流	
	きやろつとちゃん	3歳以上親子	広場・交流	
	わくわく体操	年中年長	体操・運動	
	ミトンの会	乳幼児親子	広場・交流	NPO 法人ちろりん村
	わらべうたの会	0～1歳親子	わらべうた	講師
	さんごママサロン	乳幼児親子	相談	東京都助産師会
	おもちゃ病院	全年齢	おもちゃ修理	日本おもちゃ病院協会
	でんしゃをつくろう	乳幼児保護者	工作	
	ベビトレヨガ	乳幼児親子	ヨガ	講師
	なんでもトークルーム	全年齢	相談	心理士
	でんしゃであそぼう	全年齢	広場・交流	
	おいもほり	乳幼児親子	地域・交流	矢ヶ崎農園
	冬のおたのしみ会	乳幼児親子	音楽会	弦楽器グループ
小学生を対象とした事業	コウサーーク！	小学生	工作	
	JUMP-JAMの日	小学生	運動遊び	JUMP-JAMプログラム実施館
	もぐらの会	低学年	お話会	もぐらの会
	ドッジボール大会	小学生	運動	
	仮装フォトコンテスト	全年齢	交流	
	みんなのIRODORI ひばりまつり	小学生親子	地域交流	中原小父親の会・PTA・育成会・運協
	スマイルダンスプロジェクト	小学生	チアダンス	アルバルク東京・日本NPOセンター
	冬のおたのしみ会	小学生以上	発表鑑賞	
中学・高校生年代を対象とした事業	スポゲタイム	中高生	運動・ゲーム	
	ピックアップゲームバスケ	中高生	運動・交流	
	ピックアップゲームバレー	中高生	運動・交流	
	ドッジボール大会	中高生	運動・交流	
	杉並区中高生委員会交流会	中高生	交流・意見交換	杉並区中高生委員会
	HSJ	中高生		

◇組織運営

1. 第4期中期ビジョン

2021年度は第4期中期ビジョンの最終年度となりました。中期ビジョンは、人、地域、組織の分野それぞれについて、学童クラブ運営、児童センター運営、組織など各領域での取り組みについて3か年計画を立てたものです。3か年計画で掲げた、事業の内容については、主に既存事業における安定、質の維持が概ね達成できました。しかしながら、新しい事業展開や、活動などは社会情勢によるところも多く、大きく先に進めることはできませんでした。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大や、団体内組織体制の改善の進展もあり、第4期中期ビジョンを作成した時期の背景とは異なる状況になった部分もありました。しかし、離職率の低下、ストレスチェック結果における数値的評価など、職場環境の改善においては大きく前進が見られました。女性、男性問わず職員の育休取得の実績も増え、子育てしやすい職場作りの点についても一定の成果が見られました。

2. 人材育成

団体理念や組織の概要について研修する新入職員導入研修を実施しました。また、実務開始後は新入職員へのOJTや、中堅職員が講師役となって実務研修を行うことによる中堅層のスキルアップをはかりました。受講者を新入職員に限定することなく希望職員にも広げ、再確認の機会といたしました。また、全体研修である「コンプライアンス研修」を2月に実施いたしました。コロナ禍において、対面で人数を集めた研修を開催することが難しい環境の中ではありましたが、オンラインも活用しながら、人材育成に取り組みました。

また、多様な環境での保育支援の視点を学ぶため、団体内での交換研修制度の構築を検討しておりますが、コロナ禍における移動の自粛に配慮し2021年度は未実施となりました。

3. 運営体制

コロナ禍での感染防止の取り組みとして、対面の機会を回避し必要に応じてリモート会議等にて各会議体を開催しました。

また、ハラスメント防止、コンプライアンス遵守等、職場環境の課題を、職員間でも問題解決にあたる風土作りを目指して、事務局労務担当が現場を支援する体制の一つとして、職員と個別にミーティングを行うなど、健全な就労環境の維持に努めました。

以下、各会議からの報告を記載いたします。

【施設長会議】

8月を除く毎月にて定例開催しました。2021年度は学童クラブ施設長に加え、必要に応じて児童センター長、事務局からも本会議に出席し、事業部間の迅速な情報共有、学童事業運営における課題解決を図りました。

【センター運営会議】

毎月定例開催いたしました。新体制になった 2021 年度において、体制の安定、コロナ禍における運営課題などを図るため、事務局長との情報共有、運営についての協議を行いました。

【運営管理会議】

事務局長の諮問会議として定例開催しました。事務局から各事業部に提起する事項について、担当理事、各事業部職員との意見交換、意見収集を行いました。管理運営側と事業部現場における意識の乖離を防止することを目的とした会議体として成果がありました。

4. 経営基盤強化

2022 年度の子ども支え合い事業実施を見込んで、真如苑「Shinjo プロジェクト」多摩地域市民活動公募助成に助成金申請を行い、だがりや楽校開催に向けての助成金を獲得しました。また、コロナ給付寄付プロジェクト 第 6 回公募福祉・教育・子ども分野助成基金に申請し、6 月下旬に結果が出る予定です。

5. 広報の強化

各委員会の協力を基に、様々な内容の「アミーゴ通信」の定期発行を行いました。7 月号の総会開催報告、10 月号は「山で遊ぼう！自然塾」、12 月号は「だがりや楽校」、2 月号はだがりや楽校実行委員会による編集で、各施設の「自分見せ」特集が発行されました。

また、職員間の呼び掛けにより、新しく広報委員会が発足しました。SNS も活用しながら、団体の諸活動の積極的な発信を図っていきます。1 月から当団体のインスタグラムが開設され、自然塾イベントの様子などが発信されました。(表紙 QR コードより参照ください)

6. その他の活動

■職員提案制度

2020 年度からスタートした職員提案制度により、様々な提案が職員から寄せられました。実際の活動、事業に結びついたもの、実施に向けて機会を待っているものなど様々ですが、引き続き現場職員の生のアイデアや想いが法人運営に活かされるよう、取り組んでいきます。

■プロボノプロジェクトの実施

NPO 中間支援団体が主催し、企業が NPO 運営を支援するプログラムが「プロボノプロジェクト」です。2020 年度に職員提案制度で採択された「団体課題の解決に向けての方策」の具現化への取り組みとして、2021 年度に本プロジェクトに応募しました。実施にあたっては有志職員により担当委員会が組織され、自主財源の創出に主軸をおいた提案が主催団体から採択され、プロジェクトが始動しました。中間支援団体、支援企業から法人へのヒアリングを重ねる中で、「若者支援事業」を例とした新規事業創出、それにあたっての組織基盤整備がプロジェクトの主なテーマとなりました。今回の支援側企業である NTT ドコモと共にプロジェクトが 5 月にスタートし、10 月まで実施されました。職員や関係団体への重ねてのヒアリングなどを経て、新規事業創出に向けた基盤整備について様々な手法、アイデアが教示されました。

事業を進めるにあたって、合意形成の仕方や、事業理念の浸透、人材育成など様々な切り口の具体的なアイデアを、今後チームのメンバーが各事業部と連携を取りながら浸透させていくこととして、1 年間の活動を完了しました。

■アミーゴビジョンの策定

第 5 期中期ビジョン策定について理事会で協議した結果、次期中期ビジョンを包括した、より長期的な視点に立つビジョンの策定を行うこととなりました。長期ビジョンは「アミーゴビジョン」として 2022 年度総会に提出すべく、9 月に策定委員会をスタートさせました。団体理念と中期ビジョンの中間に位置する、5～10 年後の団体の姿を具体的にイメージできて、団体に関わる者が一丸となって向かうことができるゴール作りを目指して、職員を中心とした 9 名の策定委員会メンバーが検討を重ねました。

法人初の長期ビジョン策定ということもあり、全国的に「場づくり」活動を長年にわたり行っている「NPO 法人れんげ舎」の長田英史氏を初回委員会のファシリテーターに迎え、その後もアドバイザーとして参画していただきながら進めました。

■法人創立 15 周年事業検討委員会

総会においても会員より提言された「15 周年事業」への取り組みについて、理事会で検討委員会を設立しました。周年事業として、記念催事やノベルティーの制作等も候補に挙がっていますが、法人の設立経緯、理念の背景等を記録に残し、アミーゴビジョンの策定に活かします。

■協力団体一覧

西東京市学童クラブ連絡協議会

三多摩学童保育連絡協議会

■執行部一覧（2021 年 3 月 31 日現在）

- 代表理事：松本 毅
- 理 事：安藤耕司、伊藤由加里、加々見辰也、川杉祐太、佐藤文俊、林秀和、古谷健太、村中生恵、森本薫
- 監 事：田中 誠、永井昌史
- 評 議 員：大友禾弘子、加藤 泰、木田保男、小松真弓、坂口和隆、佐藤鹿子、鈴木豊子、妹尾浩也、田崎吉則、照沼育美、中曽根聡、古谷高子、星ゆかり、真鍋五十鈴、湊谷智孝、森分エリカ

■2021 年度職員体制

- 事務局：佐藤文俊（事務局長）、久島潤子
- 学童クラブ運営事業
- 向 台 学 童 クラブ：川杉祐太（施設長）、村中生恵、安藤結香、西村勇輝、望月瑞和
- 向 台 第 二 学 童 クラブ：草苺龍（施設長）、西尾里佳子、東野奈津季、山崎悠芽、市村桃佳
- 谷 戸 学 童 クラブ：大和美恵子（施設長）、石坂法史、和田英久

北原学童クラブ：鹿野理子（施設長）、斉藤幸子、武沢友也

ひばりが丘第一学童クラブ：花津谷翔（施設長）、巻口真実、伊藤匠、熊倉のぞみ、東奈津美

ひばりが丘第二学童クラブ：林秀和（施設長）、松田彩乃、田中和拓、小島萌里

○ 児童センター運営事業

ひばりが丘児童センター：武田憲治（センター長）、久保 竜（副センター長）、

田島和也、渡邊ちひろ、立川 潤、宮崎 翠

■2022 年度 事業計画

2022 年度においても、子どもを真ん中にした地域づくり、まちづくりへの取り組みを続けてまいります。

コロナ禍の影響が長引く中、地域の中でのコミュニケーションの断絶や、他社との関係性を極度に持ちにくい状況の中で発達期を送った子ども達への影響は、今後ますます顕著になると思われます。また、今後も一定程度の様々な行動制限が継続することも予想されます。これまで団体が蓄積した経験値だけではなく、新しい視点での手法をこれからの子ども支援の手法に取り入れていくことが、これまでと同様の成果を出していくためには必要なことと思います。そのためには、団体内の人的資源を最大限に活用できるより開かれた組織作り、そのような組織による地域への積極的な情報発信と地域ネットワークの強化が不可欠です。その実現に向かい、各事業に取り組んで参ります。

アミーゴの 5 つの活動理念

- 1) 子どもたちにとって安心安全な社会をつくる。
- 2) 子どもを含むさまざまな世代の参画をすすめて、子どもを中心においた支えあいの地域をつくる。
- 3) 子育ての責任を安易に家庭に押し付けず、課題を抱えた家庭が地域とつながる家庭支援を行う。
- 4) 地域の構成員として子どもを明確に位置づけ、社会的自立に向けた成長を支援する。
- 5) 子どもを社会で育てるための条件整備者としての行政の責務を明確にし、積極的に協働型の地域づくりに関わる。

◇子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業

2021 年度も実施が見送られた自然塾、だがしや楽校、高学年合宿については、再開に向けての準備を進めて参ります。自然塾、だがしや楽校については、それぞれの 2021 年度実行委員会が作成した実施計画案を 2022 年度実行委員会が更に検討を加え、具体化に向けて取り組みます。高学年合宿につきましても、事業部でその成果目標を確認しながら実施に向けて準備していきます。

他地域交流事業については交流先との意見交換をしながら、新年度の活動の計画を立案します。

また、社会情勢を踏まえての活動となりますが、創立 15 周年事業など主催事業の実施により地域の各団体、グループとの積極的な交流を図り、今後の相互協力の機会を創出したいと考えます。

他団体の主催事業にも積極的に参画し、地域ネットワーク強化を図ります。

◇学童クラブ運営事業

保護者や学校、近隣の地域、外部団体とのつながりの強化を図り、学童クラブにおける基本的な業務を、職員の誰もが確実に一定の水準で担えるよう、学童クラブ運営事業部としての組織基盤作りに継続して取り組んで参ります。

新型コロナウイルス感染症による生活の変化により、2022 年度においても学童クラブ運営に大きな影響が出るが見込まれます。今年度も子どもたちの身体面での健康管理、心の面での健康管理、保育支援の質の担保、新生活様式への対応など、様々な面への配慮が必要になると思われます。関係各所と連携を取りながら、子ども達が安心して通え、保護者も安心して預ける事の出来る学童クラブ運営を心掛けていきます。

学童指導員の業務水準の平準化への取り組みを継続します。指導員全体としては、指導員会で取り上げるテーマを精査し、グループワークなども活用して、全体の業務水準の平準化につなげて参ります。リーダー会議である施設長会議においては、自律的に学童事業部のかじ取りをする会議体として、「指導員の仕事振り返りシート」や昨年度実施した第三者評価の結果を基に洗い出した課題を分類し、手順や取り組み先を明確にして業務水準の一定化を図ります。

ここ数年でさらに深刻になった定員超過、大規模化に関する問題は、ほぼ全ての受託学童クラブで取り組むべき課題となっています。待機児童を回避することを最優先の目的として継続されている全員入所施策の中では、施設の数が大幅に増えない限り学童クラブが大規模化することは、ある意味当然の帰結ではあります。その中で受託事業者として運営をしている中、これまで当たり前に出ていた事ができなくなったり、登下所の管理、おやつ提供などの基本業務にも影響があり、各施設とも従来にはなかった工夫が求められています。可能な限りこれまでの保育の質を保ち、子ども達が安心して帰ってこられる場所であるよう、法人内で連携を取って、この問題に取り組んで参ります。また、所管の児童館館長や市内の学童クラブ職員、行政とも意見の交換をしながら、短期、中期、長期それぞれの視点での問題解決に取り組んでいきたいと考えます。

◇児童センター運営事業

2022 年度も、引き続き地域団体や人材との関係強化、地域の輪の中での切れ目ない居場所、全ての年代の利用者にとって過ごしやすい環境整備、そのために必要な業務の平準化に取り組んで参ります。

【4つの取り組み】

- (1) 子育てネットワークの拡大を目指し、地域の団体や人材との関係を強化します。
- ・地域行事やネットワーク会議などを通して、学校や青少年育成会、児童・民生委員などの各団体との連携を強化し、子どもや地域の情報を共有できる関係性を強めていきます。

・地域の人材を発掘し、さまざまなニーズに応えられるイベントを協働して行なっていきます。

(2) 地域の子育ての輪の中で、切れ目ない居場所となる施設を目指します。

・0～18 歳までのすべての子どもとその保護者が利用できるよう、児童館ガイドラインに沿った職員の育成をします。

・子どもたちのさまざまなニーズに応えられるよう、あそびの充実を図っていきます。また、常にあそびを拡大させることを意識し、あそびを通して地域の子どもたちが繋がれる施設を目指します。

・学童卒所後も継続して利用できる施設として、学童児やその保護者を継続して見守り、支援していく体制を整えます。

(3) 全ての年代の利用者への周知と、過ごしやすい環境を整備します。

・おたよりや SNS などの広報活動を強化していきます。乳幼児保護者、小学生、中高生など、世代に合わせた媒体選びとともに、更新頻度の見直しを行ない、必要な情報が効率的に利用者に届けられるシステム作りを行ないます。

・施設の案内や、行事予定などを伝える掲示物の内容や掲示の場所、物品の配置の仕方など、施設環境の見直しと整備を行ない、初めて来館する利用者にもやさしい施設作りをします。

(4) 基本業務の見直しをし、業務の平準化を行ないます。

・業務マニュアルや業務フローを整備し、職員への浸透を図ります。

・共有ノートや企画報告書のフォーマットを見直し、日々の様子やイベントの記録などをわかりやすく残すことができる仕組みを作ります。また、共有すべき事項を整理し、長時間の開館により生じる交代勤務の中でも、対応すべき事案の詳細が適正に引き継がれる方法を確立します。

昨年度は新型コロナウイルス感染症で、やむなく利用の制限を設けた時期もあれば、感染症がおさまってきた頃には利用制限の緩和を実施した時期もあり、同じ年度内でも状況に合わせて運営方法を少しずつ変化させてきました。

今年度も社会情勢を鑑みながら利用者、職員の安全にも留意し、同時に地域の子育て家庭の支援、放課後の居場所としての役割を最大限に果たせるよう、行政や他地域の施設とも情報交換を行いながら、工夫して運営に当たっていきます。

感染症対策に留意しながらも、児童館ガイドラインに沿った運営ができるよう、人材育成に力を入れると共に、そのために必要な業務の整理、分担にも力を入れていきます。一人一人の職員が、児童館の役割や価値を深く理解することで、利用者や地域への影響力をもって事業を継続できるよう、取り組んで参ります。

【主な事業の取り組み】

■ 地域子育て支援拠点事業（子育て広場事業）

親子のつどいの場の提供や、子育て相談事業、子育て啓発事業

■小学生を対象とした事業

居場所の提供や日常の遊び、子どもたちのニーズにあった工作や料理、スポーツ、ゲームなどの行事の実施により、子ども達の育成や自発的な活動の支援、体力の増進を図る

■中学・高校生年代を対象とした事業

居場所の提供や施設のスポーツ設備を活用したイベントの実施、自主的、主体的な活動の立ち上げとその支援、利用者と保護者のための相談事業の実施

以上の内容を、感染症対策に十分に留意しながら、通年で実施して参ります。

◇組織運営

1. 人材育成

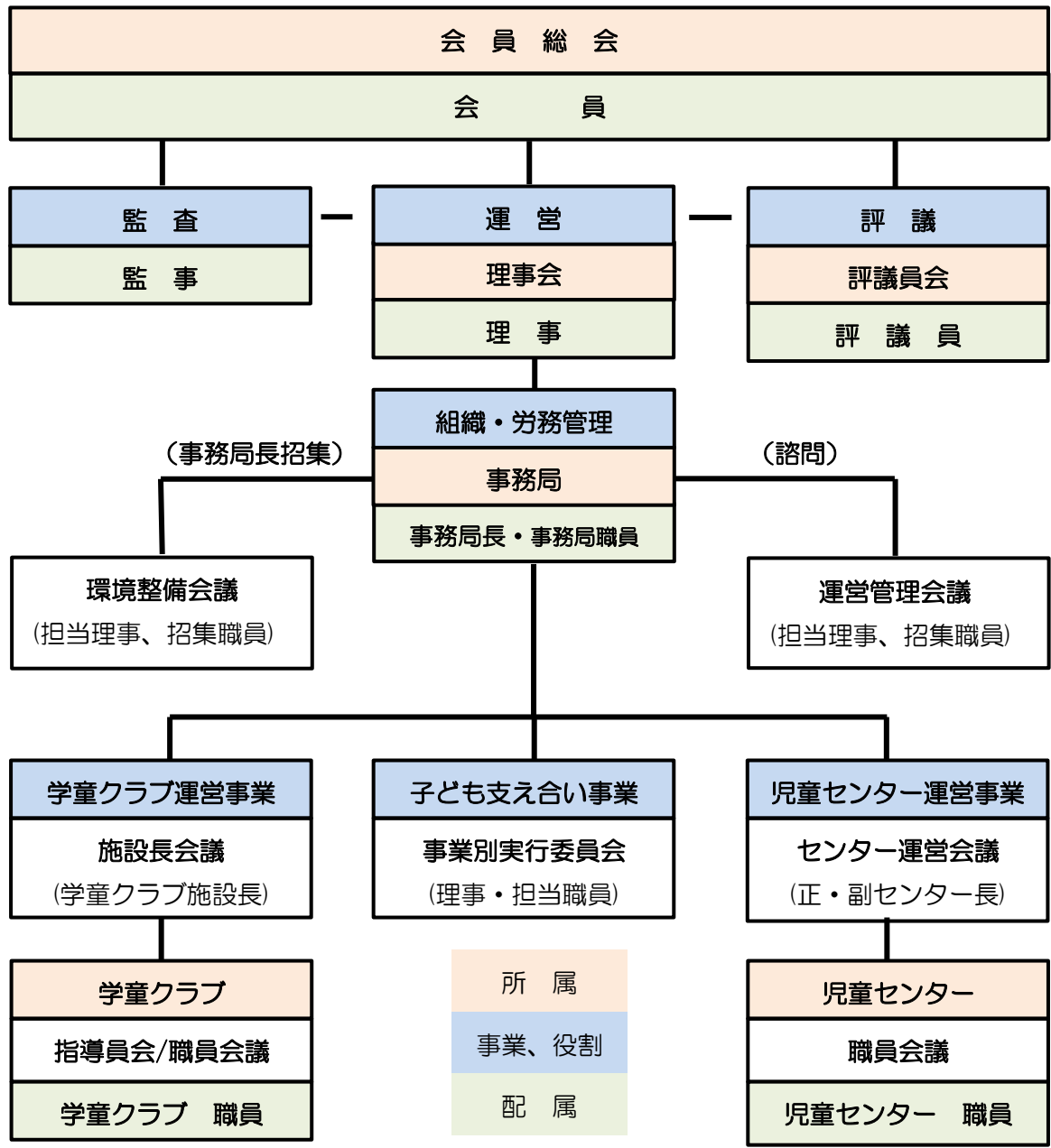
- 新入職員向けの導入研修から始まる階層別研修、技術研修など、研修体系の整備を継続します。
- 職員提案制度の具体的な運用手順を精査します。
- 目標共有シートの活用に向けて運用の再検討を行い、各職員の目標の明確化と自己実現につなげます。

2. 運営体制

- 委託事業の拡充、新規事業の創出のため、次世代リーダーの育成を図ります。
- 各事業部の自律的な運営に取り組める組織作りを目指します。

2022年度の組織運営図を次頁に記載します。

組織運営図



【事業部各会議体の役割】

①施設長会議

会議体の権限：事業計画における学童運営事業の進捗管理、事業内における課題解決、人材育成など、学童クラブ運営事業に関わる全ての案件について遂行する。

(構成メンバー：学童クラブ施設長、必要に応じて事務局長、理事)

②センター運営会議

会議体の権限：事業計画における児童センター運営事業の進捗管理、事業部における課題解決人材育成など、センター運営に関わる全ての案件について遂行する。

（構成メンバー：児童センター長、副センター長、必要に応じて事務局長、理事）

③運営管理会議

事業部全体の運営統括、労務管理、職場環境整備など団体運営に係る業務を事務局が行うにあたり、事務局長が人員を招集し、必要に応じて諮問する。

（構成メンバー：事務局長、事務局担当理事、各所から事務局長が招集した職員）

④環境整備会議

職場環境整備に関わる問題について、必要に応じて事務局長が招集し、対応を協議する。

3. 経営基盤強化

■助成金情報の確認を事務局がより恒常的に行い、スポンサーの獲得など、対外的な取り組みができるよう、タスクチームを編成し取り組みます。

4. 広報の強化

■SNSなどを活用した対外的な発信を強化し、新規会員の獲得につながる活動ができる基盤を整備するため、タスクチームを編成し取り組みます。

5. 周年事業の実施

■団体創設 15 周年事業の実施に向けて実行委員会を組織し、2022 年度内に実施します。

■2022 年度職員体制（2022 年 4 月 1 日現在）

○ 事務局：佐藤文俊（事務局長）、久島潤子

○ 学童クラブ運営事業

向 台 学 童 クラブ：川杉祐太（施設長）、安藤結香、望月瑞和、伊藤匠、斉藤幸子

向 台 第 二 学 童 クラブ：草苅龍（施設長）、立川 潤、山崎悠芽、市村桃佳、村中生恵、
西尾里佳子（育休）

谷 戸 学 童 クラブ：石坂法史（施設長）、林秀和、大和美恵子

北 原 学 童 クラブ：鹿野理子（施設長）、東 奈津美、武沢友也

ひばりが丘第一学童クラブ：花津谷翔（施設長）、巻口真実、東野奈津季、熊倉のぞみ、和田英久

ひばりが丘第二学童クラブ：松田彩乃（施設長）、田中和拓、小島萌里、西村勇輝、横山和基

○ 児童センター運営事業

ひばりが丘児童センター：武田憲治（センター長）、久保 竜（副センター長）、
田島和也、渡邊ちひろ、宮崎 翠、藤巻沙菜

■ 監査報告


監査報告書

2022 年 5 月 6 日

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京
代表理事 松本 毅 殿

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京

監事 田中 誠 

監事 永井 昌史 

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京 定款第14条4項に
基づき、2021年度の各理事の業務執行の状況及び、法人の財産の状
況の監査を行った結果、適切であることを報告する。

■代表理事、理事、監事、評議員の選任

2022年度の代表理事、理事、監事及び評議員を以下の通り提案し可決されました。（敬称略）

☐ 代表理事

(再任)

松本 毅（代表理事 元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

☐ 理事

(新任)

大和美恵子（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

(再任)

松本 毅（代表理事 元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

安藤耕司（遊び創造集団たのしーのひ代表）

伊藤由加里（元西東京市学童クラブ連絡協議会事務局長）

加々見辰也（元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長）

川杉祐太（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

佐藤文俊（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京事務局長）

林 秀和（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

古谷健太（元特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京副代表理事）

村中生恵（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

森本 薫（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

☐ 評議員

(新任)

大山忠行（特定非営利活動法人おたすけ隊副理事長）

菊池ゆかり（SHARE WELL Hironta 代表）

(再任)

加藤 泰（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

佐藤鹿子（元西東京市学童クラブ連絡協議会事務局員、保育士）

妹尾浩也（前三多摩学童保育連絡協議会会長）

田崎吉則（西東京市パパクラブ代表）

照沼育美（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

古谷高子（元児童相談所職員）

星 ゆかり（元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長、保育士）

湊谷智孝（元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長）

(非改選)

大友禾弘子（西東京市学童クラブ連絡協議会事務局員）

木田保男（元全国学童保育連絡協議会会長）

小松真弓（地域をつなぐオフィス CEO コミュニティオーガナイザー）

鈴木豊子（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

中曽根聡（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

真鍋五十鈴（西東京市主任児童委員）

森分エリカ（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

（退任）

坂口和隆（特定非営利活動法人シャプラニール代表理事）

□ 監事

（再任）

永井昌史（元特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京代表理事）

田中 誠（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京 概要（2022年4月1日現在）			
会員数	92		
理事	10		
監事	2		
評議員	16		
職員（常勤）	34		
職員（臨時）	37		
運営施設名		登録児童数 (4月1日時点)	定員
北原学童クラブ	西東京市北原町1-16-2	49	50
向台学童クラブ	西東京市向台町1-22-10	90	50
向台第二学童クラブ	西東京市向台町1-22-10	86	50
谷戸学童クラブ	西東京市谷戸町1-22-10	65	50
ひばりが丘第一学童クラブ	西東京市ひばりが丘3-1-25	88	70
ひばりが丘第二学童クラブ	西東京市ひばりが丘3-1-25	89	70
ひばりが丘児童センター	西東京市ひばりが丘3-1-25	-	-
事務局	西東京市西原町1-5-13-101		



Instagram



ホームページ